



「笠懸図書館に自衛隊がやってくる」 の中止を求めて

群馬県高等学校退職教職員の会会長 須田章七郎

昨年の10月18日、笠懸で保育園の園長をしている知人から「みどり市教育委員会に配布物を取りにいったらこんなチラシがあった。」とLINEで送ってきました。保護者に配布するよといふことでした。知らせを受け、「これはどういうことか」と思い、早速笠懸図書館に出向き、館長に会って説明を求めました。

私：この企画はどういう経緯で行うことになったのか。

館長：自衛隊の広報の方が来館し、開催依頼を受けた。過去にも2回受けており、今回は南極の氷が珍しいと思い、やることにした。

私：チラシが保育園に配られているようだが。

館長：図書館から依頼した。

私：高校の教員をしていたが、生徒たちには平和について語ることも多く、自衛隊についても触れることがあった。自衛隊は

基本的には軍隊であり、今の世界情勢からもし何かあれば自衛隊はアメリカの軍隊と一緒に殺し殺されることになるかもしれない。公的機関である図書館がこういう企画で子どもたちに自衛隊を勧めるというのは大いに疑問があり、懸念している。

館長：自衛隊は災害救助などもしているの

私：確かに災害救助では大変な苦勞をしているが、子どもたちに自衛隊が理解できるかわからないが、戦車や軍艦の塗り絵や戦闘機の折り紙づくりなどをさせて興味を持たせるというのは大いに問題がある。

短いやりとりでしたが、館長は問題の本質に少しは気付いたように感じました。

この企画について地域の民主団体に呼びかけ、早速「笠懸図書館に自衛隊がやってくることに反対する市民の会」を立ち上げ、会長に就きました。急ぎ中止を求める要請書をつくり、みどり市教育長と図書館長との面会を求めましたが、教育委員会からは、「所管の社会教育課長が対応する」として教育長の面会は拒否されました。

11月7日、市民の会から5人、課長と館長が同席し、話し合いを持ちました。私から要請書を手渡し、全文を読み上げました。

要請書の要旨

「ロシアのウクライナ侵攻によって連日悲惨な様子を目にしている。戦火に逃げ惑う小さな子どもや母親、年老いた人々である。また、中東ではハマスとイスラエルの戦争によってここもまた毎日一般人が多数犠牲になっている。こうした世情がある中で、この企画は余りにも市民感情を軽視している。自

衛隊は災害救助などをしているというが、それは一面的であって、戦車や銃器、戦争のための武器を備えた事実上の軍隊である。子どもたちに戦車や軍艦の塗り絵や戦闘機をペーパークラフトでつくるなどよりも、今やるべきことは戦火に苦しむ人々に思いを馳せ、悲惨な状況を写した写真展や朗読会ではないか。市内にはウクライナからの難民もいるが、戦争の道具となる装備品の展示がどんなに感情を傷つけるか配慮に欠ける。こうした企画は中止すべき。自衛隊側は一般受けしそうな南極の氷の展示を用意したが、本音は如何にして自衛隊員を募集するかにある。小さな子どもたちにはこうした内容を理解出来るとは到底思えない。その事を十分検討し、再考を求める。」

これに対し、課長は「2021年の林野火災や防災訓練など、危機管理や災害について自衛隊と連携を取っているので、社会教育施設として災害時の救助などを含めた自衛隊の仕事を知ってもらう機会として企画した」と経緯を説明しましたが、要請文の主旨をふまえ、市民感情への配慮が不足していたとして内容の変更を約束しました。館長は中止にはできないとしつつ、課長と同様に内容の変更を検討すると答えました。後日、課長から災害救助をメインとした展示にし、体験は削除すると電話がありました。

11月23日の当日は、9時30分頃から市民の会の人たちが集まり、図書館前にて「憲法九条を守ろう」といった横断幕を掲げ、総勢14人がスタンディングを行いました。館内に入るとパネルには災害救助を写した写真が貼られ、子どもたちは土嚢を手にしたたり、南極の氷に触れたりしていましたが、強く中止を求めた塗り絵などの体験は無くなりました。2時間ほどの間に10数組の親子連れが訪れましたが、私たちに理解を示す人もいれば、車の窓を開けて「自衛隊はいいんだよ」と怒鳴り返す父親もいました。

今回は、たまたま知人からの連絡から素早い行動がとれましたが、館長が言うように、

過去に2回ほど行っていたことは全く迂闊でした。当日、知り合いの図書館職員とこんなやりとりがありました。

職員：なんで反対なんですか。

私：今、毎日のように子どもたちが戦火に遭い、悲惨な事になっているのに、なんで年端もいかない子たちに軍艦や戦車の塗り絵をさせるのかな。

職員：小さい子は喜ぶと思ったから。

私：そうなんだよ。我が家の小1の孫にこのことを話したらやりたいと言った。自衛隊がどんなものかもわからず、塗り絵という言葉に反応したんだよ。

職員：自衛隊がなんでダメなんですか。北朝鮮が攻めてきたらどうするんですか。自衛隊がなかったら大変じゃないですか。

私：攻めてきたらどうするかではなく、戦争にならないようにするにはどうしたら良いのかを考えるべきじゃないかな。攻めてきたらという考えに立つからどんどん軍事費が増え、43兆円も予算を付けるようになるんじゃないかな。

職員：私も43兆円には反対です。もっと他に回して欲しいと思っています。でも、今回のことは納得いきません。

どうやら、この職員が企画を練ったようで、変更を余儀なくされたことに随分と立腹のようでした。このやりとりで分かるように、自衛隊が国を守ってくれると信じていながら、軍事費増大は反対という自己矛盾を抱えている人は相当数いるのではないかと思います。

恐らく、今後もこうした公共施設を使った自衛隊の勧誘は行われていくのではないかと思います。自衛隊員のなり手が減少し、防衛大学校卒業生の任官拒否が増えていることから、早くから自衛隊を意識づけしようという動きには注意を払っていくことが必要だと思います。